

土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調査名 一級河川 太田川水系 桐原川支川22外 通常砂防事業に伴う業務
委託

事業・工事名

調査目的及び調査対象 砂防 構造物基礎

ボーリング名	BorNo. R2-BT-2		調査位置	広島県広島市安佐北区可部町桐原 地内		北緯	34° 31' 46.2507"		
発注機関	広島県西部建設事務所		調査期間	令和2年12月15日～ 令和2年12月18日		東経	132° 31' 36.7391"		
調査業者名	中国開発調査株式会社 電話 082-274-1211		主任技師	本山 秀明 地質調査技師登録番号: 第12244号		コ 鑑 定 者	本山 秀明 地質調査技師登録番号: 第12244号		
孔口標高	TP 114.28m	角			地盤勾配	0° 鉛直 90°		ボーリング責任者	加藤 良彦 地質調査技師登録番号: 第21934号
総削孔長	8.29m	度			使用機種	試錐機 YBM 1WA型		ポンプ	YBM GP-5型
					エンジン	ヤンマー TF90V-E型			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名 (模様)	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色	相対密度	相対稠度	記 事	孔内水位 / 測定月日	標準貫入試験						試料採取		室内試験	削孔月日							
											深度 - N 値 図						深 度 (m)	試 料 番 号			採 取 方 法						
												N 値	100mm毎の打撃回数	50回の貫入量	自沈時の貫入量												
												深 度 (m)	0	100	200	打撃ごとの貫入量											
												値 (m)	100	200	300												
1	113.68	0.60	砂質土	砂質土		灰褐	rd2		表土及び崩積土 ・最上位はコブシ大-人頭程度の玉石及び粗礫が点在 ・砂は細-粗粒砂から成り粒度不均一-土石流堆積物(完新世崩積堆積物) ・礫はφ20-40mm程度の中-粗礫が混入 ・基質は粒径幅広く細粒分を伴う砂質土 ・場所的に基盤地質起源の原岩組織が残留する風化岩塊及びクサリレキが点在 ・GL-0.60-1.00m間、確認石長L=0.40mの花崗岩質玉石を挟む 中粒弱斑状黒雲母花崗岩風化土(DL) ・風化変質が進行し岩質は著しく軟質化 ・原岩組織は明瞭に残存 ・採取試料は土柱状を呈すが脆く、指圧で凹むうえ容易に圧潰される 中粒弱斑状黒雲母花崗岩強風化岩(DH) ・風化変質が進行し岩質は軟質化 ・原岩組織は明瞭に残存するが、長石類及び熱水脈の粘土化若干進行 ・採取試料は場所的に岩芯を残すが、概ねでは土柱状を呈す ・上位同様、強指圧により凹み容易に圧潰可能 ・深度方向に固結度を増し漸移的に硬質化	▽	0	10	20	30	40	50	60	16	1.15	6	5	5	16	300			
2			礫混り砂質土			黄褐	rd3					12	1.45	4	4	4	12	300									
3	111.68	2.60	花崗岩			灰褐						13	2.45	3	4	6	13	300									
4			花崗岩									28	3.45	8	9	11	28	300									
5	109.28	5.00	花崗岩									50以上	4.45	15	18	17	50	270									
6			花崗岩									50以上	5.42	13	18	19	50	270									
7			花崗岩									50以上	6.15	17	23	10	50	230									
8	105.99	8.29	花崗岩									50以上	6.42	17	23	10	50	230									
9											50以上	7.15	37	13	50	140											
10											50以上	7.38	40	140													
11																											
12																											
13																											
14																											